

企業行動研究部会議事録（第 251 回）

日 時： 平成 29 年 7 月 10 日(月) 18:00-20:00

場 所： 中央大学駿河台記念館 3 階 350 号室

出席者： (14 名 勝田、河口、木下、栗栖、西藤、佐久間、桜井、佐藤、出口、永井、野瀬、松尾、峰内、宮沢 敬称略)

1. 連絡事項

勝田部会長より開会が宣せられ、総会及び理事会議事について報告が行われた。

会員より学会の名義登録について質問があり、事務局担当より商標権と会則の関係も含め説明が行われた。

2. 第 1 テーマ：平成 29 年度研究発表大会について（意見交換）

勝田部会長より 6 月開催の平成 29 年度研究発表大会について、特にシンポジウム“経営倫理の過去・現在・未来”について意見交換を多うことが発言され活発な意見交換が行われた。

<意見骨子>

- ・今回は研究発表者がやや少なかった
- ・発表者が発表を終わるとすぐ帰ることも問題と感じた
- ・企業行動研究部会のメンバーにもっと多く参加頂きたかった
- ・研究会での会員の方々の発表は、日本経営倫理学会の発展と存続のために欠かせない最重要な事業であります。このためには質の高い論文の発表が重要であることは言うまでもありませんが、このところ発表者の数が少ないことが気にかかります。論文の審査が厳しくなったからと言われていますが、厳しく、質の高い発表を行うことも大事ですが問題もあります。

研究発表会は、発表する人と、それを聴いて論評、アドバイスする人、聴いて勉強する人の共同で成り立つものであります。

厳しくし、発表者が少なければ来る人も少なくなるのは当然です。参加者の少なさにも驚きました。残念なのは、もっとたくさんの人の発表を聴きたかったがそれができなかったことです。A ランクの人だけでなく、B ランクの人の研究も聞きたかった。論文で大切なのは、テーマの設定と、その論理の組み立てです。

それらがよくても論文自体が未熟だとはじかれてしまうのではないかと。私はとしては、論文が未熟だけれど、テーマ設定が面白い荒削りの論文に出会いたい。それらの人にアドバイスすることが若い人を育てることになる。

このままでは若い人は遠ざかり、「論文成って学会衰える」ことになるのではないかと心配です。

ただし、これは会場を増やしても、聴く方からは何ら解決になりません。時間枠を増やしていただければ、参加者は増えない。例えば、シンポジウムを 2 時間に短縮すれば 4 人の発表が聴けることになる。発表会の運営の方法も考えないと、日本経営倫理学会も先細りになってしまう心配です。参加者が少ないと会員の士気にも影響するのではないのでしょうか。

- ・ノンアカデミックな実践的発表が少なくなっており、問題と思おう。
- ・自身今回欠席したが、学会の存在意義として若手研究者の取組は如何だったか。⇒

- ・十川氏の講演には時代錯誤を感じた。CSRは社会貢献との前提で、構成されており論として古すぎたのではなかったか。
- ・経営倫理の過去・現在・未来というテーマとして招請したと思う。過去の、経営倫理やCSRが議論されなかった時代に企業の社会的責任論を日本に導入した先生であり、そのことについて確認できたことはそれなりの価値があったのではないか。
- ・事前の選に漏れたのは数点あったが、応募自体が減少したと認識している。
- ・エントリー数は前年と比べてどうだったのか。・・宿題
- ・ポスターセッションの方とお話ししたが発表してほしかった。
- ・シンポジウムは、最先端の方々が良くそろわれたと思った。古い方がいらっしやったことは否定しないが重みもあった。岡山大学の寺本さんの発表は大変有意義に感じた。
- ・各会場とも発表に対する質問時間が少なく、十分な質疑が行えないと思った。
- ・公務員倫理のワークショップのイメージが予想と少々異なった。休憩時間に質問を集めて、順次回答するのでは、講演会と同じと感じた。また公務員は政治家の決めたことを淡々と実行する者との発言には異議を感じたが同じ指摘をされた方がいて良かった。併せてもう少し自由な実務的な討議があるべきと感じた。ただ今後新たな部会もしくは研究会を立ち上げるとの提案があったため、参加してみたいと考えている。全体としてややアカデミックに引っ張られていると感じた。
- ・公務員に求められる職業倫理について考えるということで、中谷先生及び前記ワークショップ参加の講師の資料を合わせてレビューしたいと考えている。資料のPDF配信を検討する。

以下略

3. 第2テーマ：公益資本主義“原丈人”について

佐藤部会員より、公益資本主義で有名な原丈人について提出資料、事前配信資料などを基に、原丈人について個人的意見として説明があった。

<意見交換>

- ・原丈人は現在淡路島で講演活動をしている
- ・淡路島と言えば、司馬遼太郎の菜の花の沖“高田屋嘉平”の話で大変興味深いのが、出身者なのか
- ・大阪出身とされている
- ・原丈人に対する評価される方が多いが、現在の租税回避の推進者としての面があり、そのことも意識しておくべきではないか
- ・彼は常に権力のそばで実行力を発揮している能力の持ち主と思う
- ・どうして中国との取引を進めないか聞いた折、当時彼は安心して付き合える法治国家ではないと過去に伺ったことは印象深かった。
- ・大変入れこまれている感じがするが、何となくこういう方は実態のない人と感じている。魅力とされている点はどのあたりか。
 - ➡考古学者からイエズス会の理事との話があるが、活動全体のつながりが見えない。
- ・様々なところで実績と言われるが、実際のエビデンスが見えないと感じている。実際に彼の仕事現場の方々によるとブラック非難もあると認識している。
- ・経済構造改革特命委員会等の委員など、国内外の多くの役職を歴任していることは認識している

が、最近は少し違和感も覚えている。

- ・四半期決算をやめる運動なの実施しており、評価すべきと考える面もある。
- ・米国流コーポレートガバナンス批判などは大変興味深い。

(以下略)

4. 株主総会のピークを終えて (3月決算企業全般について報告・意見交換)

<意見>

- ・タカタの資料を配布したが、株主総会に関する一つの資料として配布した。
 - ・タカタは2011年3月11日トラブルがあった。タカタのネオンサインが原発事故後の電力危機の折、終夜煌々とついていた。すぐに電話したところ翌日から電気が消えた。一方田中土建も同様に電気がついていた。こちらにも電話をしたが、4日間消えなかったということがあり、タカタには敬意を表していたため残念な気もする。
 - ・タカタのみが追及されているが、自動車メーカーの責任論がどうなっているか疑問を持つ
 - ・同じ仕様で作られていると思うが、米国では事故が多発し、国内では起こっていないことなど原因が不明確だったことが謝罪問題を生んだとも考えている。
 - ・FF社の件について今週のガバナンス部会で発表が行われるので場合によっては、に紹介できるかと考えている。
 - ・米国量刑ガイドラインの変化情報をご存知の方がいたらご教授願いたい。
- ※他の株主総会出席者が少なく当該主題は終了した。

以上

5. その他

次回日程8月7日(第一月曜)を確認し閉会した。

以下略

(文責：河口)

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：朝倉、荒川、安藤、石川、井上(真)、井上、岩倉、上原、遠藤(淳)、遠藤(梨)、大泉、大島、岡田(佳)、勝田、加藤、河口、川村、北川、木下、熊本、栗栖、桑山、小池、西藤、斉藤、佐久間、櫻井、佐藤、柴柳、鈴木(啓)、瀬名、潜道、高橋、武谷、田村、出口、徳山、中島、永井、那須、西井、西村、野瀬、野田、比賀江、樋口、肥後、菱山、平塚、古谷、古山、前原、増岡、増澤、増渕、松尾、松本、丸山、水島、水野、峰内、宮川、宮澤、山口、山中、山本、横館、吉村

[学会本部]：梅津会長、水尾副会長、高橋前会長、内田事務長